

愛知県渥美半島 大山での陸上自衛隊ヘリコプター訓練問題 を考える

責任者 大羽 康利 (渥美自然の会)

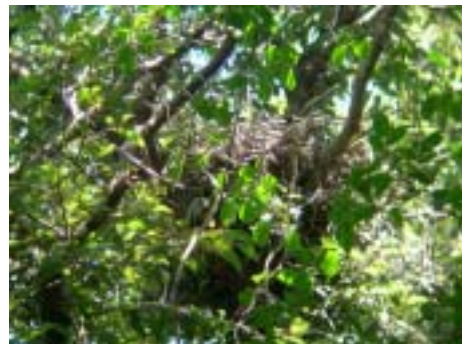
猛禽類・小鳥類の重要な渡りの経路となっている愛知県渥美半島・渥美山塊の最高峰「越戸大山」山頂(328m)近くを陸上自衛隊航空学校がヘリコプター離着陸訓練場とする計画につき、日本鳥学会は2004年度の総会で、「再検討を求める要望書」を決議し、防衛庁・防衛施設庁長官、環境省大臣などに提出した。

名古屋防衛施設支局は05年5月、自然関係者8名と「話し合い」を持ったが、要望書決議にあるような「環境保全に十分配慮した新たな検討を行うこと」はなく、05年10月1日より大山に「陸上自衛隊ヘリコプター着陸帯(ヘリパッド)」（正式名称：「陸上自衛隊豊川駐屯地訓練場」）が設置された。

06年2月参議院議員の国会質問主意書への回答の中で、防衛庁は07年に「鳥類の生息調査」を行うことを明らかにし、現在までに離着陸を伴うヘリコプター訓練は行われていない。06年7月、愛知県知事も国定公園管理者としての立場から「鳥類の生息調査後、科学的で開かれた話し合いを自然関係者が求めていることを防衛庁に伝える」と約束した。

しかしながら、渥美山塊への自衛隊ヘリコプターの飛来が06年の猛禽類繁殖期になってからも数回目撃されており、07年の「鳥類の生息調査」が科学的なものと言えるかどうか、危惧される事態となっている。

大羽等は05年以降も引き続き渥美山塊の鳥類調査を行って来た。本自由集会ではその調査結果を紹介し、防衛庁の調査はどうあるべきか、鳥類関係者は「科学的で開かれた話し合い」のために何をなすべきか等について、忌憚のない意見交換をする場となることを願って開くものである。



06年8月14日に渥美山塊で見つかったハチクマ幼鳥 と 巣